



®環境省

エコアクション21

認証番号 0007842

# 環境経営レポート

# R1

共栄環境開発株式会社

発行日：令和2年4月16日

運用期間：平成31年1月～令和1年12月



# 環境経営方針

## 環境理念

**私達は、事業活動において、省エネルギー及びリサイクルを推進し、地域の環境保全に寄与する企業を目指します。**

## 行動指針

1. 事業活動に伴う環境負荷を低減する為、二酸化炭素の排出量、エネルギーの使用量、水の使用量、廃棄物の排出量、輸送における燃料使用量の削減に努めます。
2. 特に収集運搬車両のエコドライブを実践し、省エネと排気ガスの抑制に取り組みます。
3. 受託した産業廃棄物の運搬先は、再資源化されている処分業者を優先的に選定し、リサイクル率の向上を図ります。
4. 作業機材や作業工程に、環境負荷の低減に資する工法や機材を選定し取り入れるよう努めます。
5. 省エネ、省資源に対応したグリーン製品を優先的に購入します。
6. 積極的に社会貢献活動（環境保全活動）に取り組み、地域環境保全に寄与します。
7. 事業に関連した環境に関する法規等を遵守します。
8. 環境方針は定期的に見直し、全社員に周知徹底、意識高揚をはかり、環境マネジメントシステムの継続的改善に努めます。また、環境活動レポートは一般に開示します。

制定日 平成 23 年 4 月 1 日

改訂日 平成 24 年 1 月 4 日

共栄環境開発株式会社  
代表取締役 久留須 智子

# 組織の概要

## ■ 会社概要

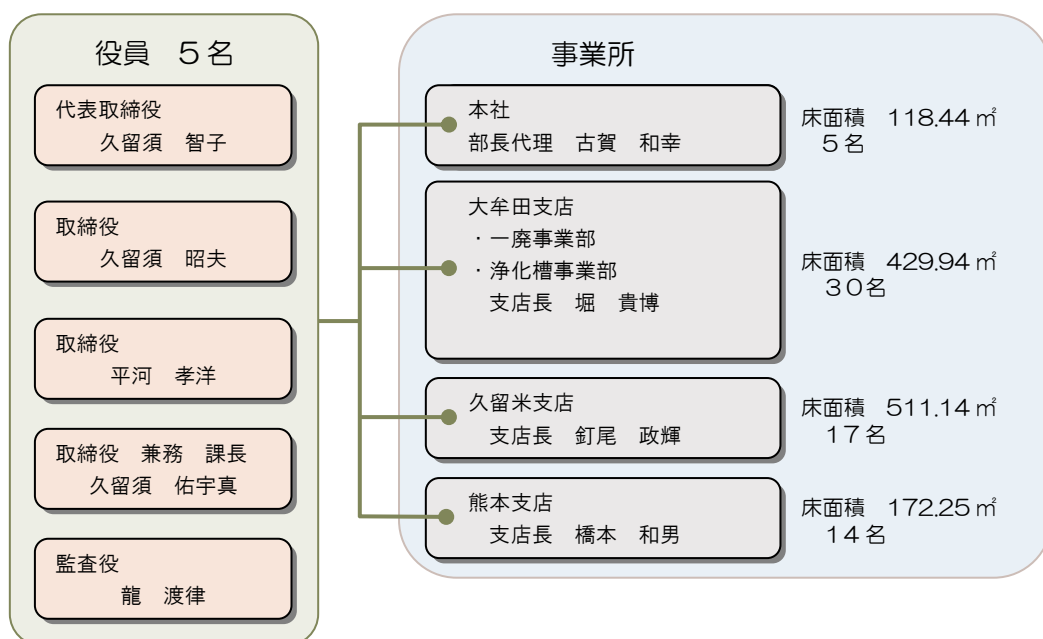
社 号 / 共栄環境開発株式会社  
代 表 者 / 代表取締役 久留須 智子  
設 立 / 昭和 38 年 2 月 7 日  
資 本 金 / 払込 4,100 万円  
売 上 高 / 1075 百万円 (平成 31 年度)  
事業年度 / 1 月 1 日 ~ 12 月 31 日

## ■ 所在地

本 社 (〒836-0057) 福岡県大牟田市汐屋町 5 番地の 15  
TEL : 0944-52-6732 / FAX : 0944-54-1525  
大牟田支店 (〒836-0073) 福岡県大牟田市船津町 326-2  
TEL : 0944-55-1231 / FAX : 0944-56-9532  
久留米支店 (〒839-0806) 福岡県久留米市東合川干出町 2-1  
TEL : 0942-45-3311 / FAX : 0942-45-3317  
熊 本 支 店 (〒861-4101) 熊本県熊本市南区近見 8 丁目 8-45  
TEL : 096-358-5611 / FAX : 096-358-5118

## ■ 会社組織図

総員 71 名 総床面積 1231.77 m<sup>2</sup>



# 組織の概要

## ■ エコアクション21実施体制

環境管理責任者：部長代理 古賀 和幸 （連絡先：0944-52-6732）  
実施担当者：別所 孝行 （連絡先： 同上 ）  
EA21委員会：取締役 平河 孝洋  
監査役 龍 渡律  
支店長 堀 貴博  
支店長 釘尾 政輝  
支店長 橋本 和男  
課長 浦末 浩明  
課長 久留須 佑宇真  
EA21事務局：部長代理 古賀 和幸  
別所 孝行

## ■ 会社沿革

昭和29年 9月 創業  
昭和38年 2月 共栄衛生有限会社 設立  
昭和47年 3月 社名を共栄環境開発有限会社に変更  
昭和55年 2月 本社ビル完成に伴い現住所に移転  
昭和57年 9月 玉名営業所開設  
昭和58年 7月 筑後環境分析センターを寄付  
昭和60年 5月 資本金を1000万円に増資  
昭和60年12月 筑後環境分析センターを寄付（（財）有明環境整備公社設立）  
昭和61年 4月 熊本営業所開設  
平成 3年 5月 社名を共栄環境開発株式会社に変更  
平成 3年 7月 熊本支店を近見に新設  
平成 8年 8月 久留米支店を梅満町に新設  
平成10年11月 久留米支店を東合川干出町に新築移転  
平成11年 4月 大牟田支店を船津町に新設移転  
平成20年11月 資本金2000万円に増資  
平成24年 2月 資本金4100万円に増資

# 事業の概要

## ■ 認証登録の対象組織、活動

認証・登録組織名：共栄環境開発株式会社（福岡県大牟田市汐屋町5番地の15）

認証・登録番号：007842

認証・登録日/2011年12月20日

更新・登録日/2019年12月20日

有効期限/2021年12月19日

（事業内容）

産業廃棄物・特別管理産業廃棄物収集運搬業、産業廃棄物処分業（中間処理）、浄化槽維持管理、し尿収集運搬の委託業務、建設業（土木、管、浚渫）、伏び工事（FCR工法）

## ■ 関連事業所及び活動

- 本社  
総務、経理、経営企画
- 大牟田支店 浄化槽事業部  
浄化槽維持管理、排水処理施設の技術管理、関連機器の修理、管工事及び排水設備工事
- 大牟田支店 一廃事業部  
し尿収集運搬業務（大牟田市からの委託業務）
- 久留米支店  
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修、FCR工法による伏びの維持管理業務（鉄道事業室）
- 熊本支店  
産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、産業廃棄物処分業（移動式脱水車による汚泥脱水中間処理）、浚渫業（各種ピット、側溝、水路、管渠内）、テレビカメラ車による管渠内調査・補修
- 船津車庫  
業務車両の駐車場のみ

**エコアクション21の取り組み範囲は、上記の全組織・全活動を対象とします。**

※ただし建設業においては、長期の建設現場をもたない業務が主であり、事務所、車両等も廃棄物処理業と共有していて、環境への負荷を分けて算出することが困難であるため、環境目標、環境活動等は全て廃棄物処理業と合わせて考えるものとし、あきらかに住み分けができる浚渫のみ環境負荷の記録項目に追加しています。

# 事業の概要

## ■ 料 金

業務の内容に応じてお見積りいたします。

## ■ 産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラ	紙くず	木くず	繊維くず	動・植物性残さ	ゴムくず	金属くず	ガラスくず・陶磁器くず・及びコンクリートくず	鉱さい	がれき類	動物のふん尿	ばいじん	石綿含有産業廃棄物を含む
	許可期限																		
優良 → 福岡県 04000000741	H27. 2. 2	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H34. 2. 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 熊本県 04305000741	H26. 9. 1	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H33. 8. 31	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 佐賀県 04101000741	H26. 4. 14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H33. 4. 13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 長崎県 40200000741	H25. 11. 27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H32. 11. 26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 大分県 04407000741	H26. 2. 28	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H33. 2. 27	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 宮崎県 04504000741	H29. 1. 26	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H36. 1. 25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 鹿児島県 04608000741	H28. 10. 25	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H35. 10. 24	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
優良 → 山口県 03500000741	H26. 6. 16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H33. 6. 15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
広島県 03400000741	H29. 2. 6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H34. 2. 5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
岡山県 03300000741	H29. 12. 14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
	H34. 12. 13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※平成 24 年 4 月 1 日の廃掃法の改定により、保有していた市の許可は全て、県の許可に統合されています。

※積替え保管施設はありません。

※左に「優良」の文字を表示している箇所は、「優良産業廃棄物処理業者認定」を取得しているという意味です。これは、次ページ（8p）も同様です。

# 事業の概要

## ■ 特別管理産業廃棄物収集運搬業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	燃 え 殻	汚 泥	廃 油	廃 酸	廃 アル カ リ	鉍 さ い	ば い じ ん	廃 石 綿 等
		許可期限								
優良	福岡県 04050000741	H26. 9. 21	●	●	●	●	●	●	●	●
		H33. 9. 20								
優良	熊本県 04355000741	H26. 5. 23	●	●	●	●	●	●	●	●
		H33. 5. 6								
優良	佐賀県 04151000741	H30. 1. 11	●	●	●	●	●	●	●	●
		H37. 1. 10								
優良	長崎県 04250000741	H28. 12. 28	●	●	●	●	●	●	●	●
		H35. 12. 27								
優良	大分県 04457000741	H28. 10. 26	●	●	●	●	●	●	●	●
		H35. 10. 25								
	宮崎県 04554000741	H29. 9. 15	●	●	●	●	●	●	●	●
		H34. 9. 14								
優良	鹿児島県 04652000741	H27. 4. 30	●	●	●	●			●	●
		H34. 4. 29								
	山口県 03550000741	H28. 12. 16	●	●	●	●	●	●	●	●
		H33. 12. 15								
	広島県 03450000741	H29. 2. 6	●	●	●	●	●	●	●	●
		H34. 2. 5								
	岡山県 03350000741	H29. 12. 14	●	●	●	●	●	●	●	●
		H34. 12. 13								

## ■ 産業廃棄物処分業許可 取得状況表

	官 庁 名	許可取得 (更新) 年月日	汚 泥 (有 機 性)	
		許可期限		
優良	福岡県 04020000741	H27. 2. 2	●	移動式の汚泥脱水車を排出事業所内に搬入し、汚泥脱水中間処理を行います。 ※詳細→9P
		H34. 2. 1		
優良	大牟田市 07820000741	H28. 11. 1	●	
		H35. 10. 31		
優良	久留米市 11220000741	H27. 2. 2	●	
		H34. 2. 1		
優良	熊本県 04325000741	H26. 9. 1	●	
		H33. 8. 31		
優良	熊本市 08123000741	H29. 4. 13	●	
		H36. 4. 12		
優良	佐賀県 04121000741	H31. 4. 14	●	
		R8. 4. 13		



# 事業の概要

## ■ 中間処理施設 概要

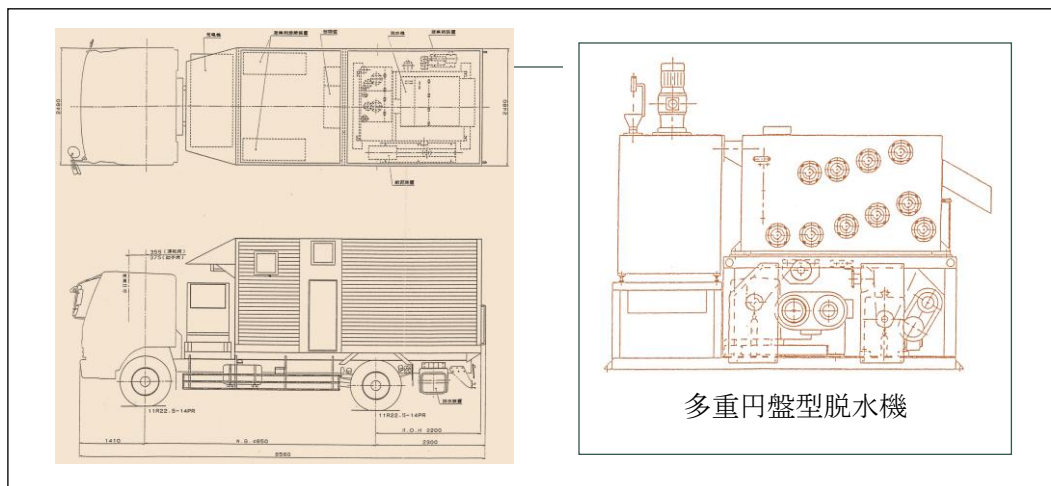
施設の種類：移動式汚泥脱水車

処理方法：多重円盤型脱水方式（株ヘリオス社製脱水機 SP-1000）

処理する廃棄物：汚泥（有機性のものに限る）

処理能力：最大 9m<sup>3</sup>/時

※上記の処理能力は計算上の数字です、実際は汚泥の性状等によって変動します。

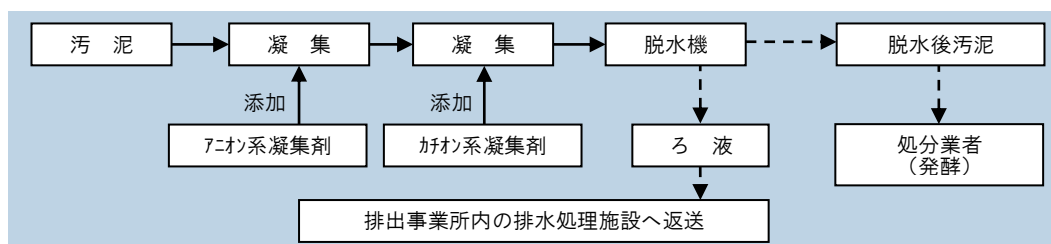


### ※環境汚染防止対策

脱水作業により発生した排水は一度脱水車の水受けタンクに受け、排出事業所内の水処理施設に返すため、水質汚染は発生しません。施設の稼働には防音型の発電機を用い、脱水機はステンレス板で被い囲む構造としているため、振動・騒音・悪臭の発生も軽微です。

## ■ 中間処理の概要

移動式の汚泥脱水車のため、排出事業所内へ施設を搬入し、排出事業所内の汚泥貯留槽等よりポンプで直接汚泥を脱水車に引き込み、脱水処理を行います。脱水後の汚泥は密閉型のフタ付コンテナに収納し、脱着装置付コンテナ専用車で発酵処理施設へ搬入し処分します。



# 事業の概要

## ■ その他の許可 取得状況表

### ● 一般廃棄物収集運搬

大牟田市	委託	事業範囲	し尿収集運搬
	許可	事業範囲	浄化槽汚泥、ディスポーザー排水処理汚泥
		許可番号	第2号
		許可期限	R2. 4. 1～R4. 3. 31
久留米市	許可	事業範囲	燃やせるごみ、空きカン・空きビン及びペットボトル
		許可番号	第1020号
		許可期限	R2. 4. 1～R4. 3. 31
川棚町	限定許可	事業範囲	し尿及び浄化槽汚泥
		許可番号	第71号
		許可期限	R1. 5. 2～R3. 5. 1
		限定条件	ハラサンギョウ(株)への搬入に限る。
熊本市	許可	事業範囲	ごみ(事業ごみと臨時の家庭ごみ)
		許可番号	第19R-171号
		許可期限	H31. 4. 1～R3. 3. 31

### ● 浄化槽保守点検・清掃

大牟田市	許可	事業範囲	浄化槽清掃業務
		許可番号	第2号
		許可期限	R1. 6. 1～R2. 5. 31
	登録	事業範囲	浄化槽保守点検業務
		登録番号	第2号
		登録期限	H31. 4. 1～R4. 3. 31

### ● 建設工事

国交大臣	許可	事業範囲	建設業許可(土木、管、しゅんせつ)
		許可番号	(般-29)第16063号
		許可期限	H30. 2. 16～H35. 2. 15
大牟田市	指定	事業範囲	排水設備工事
		指定番号	17
		指定期限	H28. 7. 10～H33. 7. 09

# 事業の概要

## ■ 保有車両の種類と台数

種類	台数
特殊強力吸引車	12
強力吸引車	3
脱着装置付コンテナ専用車	5
クレーン付平ボディー車	2
塵芥車	2
ダンプ車	3
Wキャブダンプ車	2
トラック	2
ピックアップトラック	1
超高压洗浄車	1
高压洗浄車	5
給水車	5
下水道管渠内調査用 TV カメラ搭載車	2
移動式汚泥脱水車	1
バキューム車（浄化槽）	6
バキューム車（一廃）	3
ホロ付トラック	1
バン（浄化槽管理用）	8
ワゴン車（浄化槽管理用）	1
営業車	20
合計	85

# 環境目標と評価 全体

## ■ 環境目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	680392.0	±0%	680392.0
	▶ 電気使用量の削減	kWh	110753.0	±0%	110753.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	104.0	±0%	104.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	241407.4	±0%	241407.4
②	廃棄物排出量の削減	kg	9483.7	±0%	9483.7
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	919.4	±0%	919.4
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	602	±0人	602
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	
			H27年度実績		H30年度	H30年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	591248.6	-1.5%	582379.9	660345.7	86.6%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	102648	-3.0%	99568.6	110753.0	88.8%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	124.6	±0%	124.6	104.0	116.5%
	▶ 燃料使用量の削減	L	208530.2	-1.5%	205402.2	241407.4	82.5%
②	廃棄物排出量の削減	kg	7447.5	-3.0%	7224.1	9483.7	68.7%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	1027	-3.0%	996.2	919.4	107.7%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	604	+3人	619	602	97.3%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境目標と評価 全体

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	680392.0	±0%	680392.0	618125.3	109.2%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	110753.0	±0%	110753.0	96026.0	113.3%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	104.0	±0%	104.0	154.0	51.9%
	▶ 燃料使用量の削減	L	241407.4	±0%	241407.4	226892.8	106.0%
②	廃棄物排出量の削減	kg	9483.7	±0%	9483.7	8051.1	115.1%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	919.4	±0%	919.4	760.9	117.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	602	±0 人	602	591	98.2%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	ガス使用量の削減では目標値を達成できなかったが、燃料使用量と電気使用量では、削減目標を達成できている。その事が大きく影響し、総合的な二酸化炭素排出量の削減目標を達成する事ができた。
	▶ 電気使用量の削減	○	余裕を持ち目標値を達成する事ができていて、前年度と比較すると、夏場と冬場のエアコンを頻繁に使用する時期でも、使用量が抑えられていた事がよく分かる。
	▶ ガス使用量の維持	×	シャワー設備の使用が多く、ガスの使用量が増えている。しかし、これは会社として、衛生観念の向上や、福利厚生強化があった為でもある。元々、使用量はさほど多くはないので、大きな問題はないと考える。ただ、節約の意識は忘れないように改めて呼び掛けは行う。
	▶ 燃料使用量の削減	○	燃料使用量に関しては、業務量と密接な関係にあり、業務量が減少すると燃料使用量も減少する関係にある。あまり減少し過ぎる事は喜ばしい事ではないが、今年度は、売上高が上昇している中で、削減できているので、活動の成果が表れていると評価できる。ただ、今年度は外注費も多い年だった為、社内の実動を考えると削減量は少ないと推測できる。
②	廃棄物排出量の削減	○	年度により排出量にばらつきがある項目ではあるが、目標の達成ができていたという事は、削減活動がしっかり行われている成果だと評価したい。
③	水使用量の削減	○	節水活動がきちんと実施され、継続した節水活動の成果が表れている。非常に優秀な数値で目標値を達成できている。
④	グリーン購入の推進	○	優先的にグリーン製品の購入が行われている。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標値の達成には至らなかったが、ほんの僅かという事もあり、問題はないと考える。すでに、かなりの人数が活動に参加しているので、今後は参加人数を増やす目標を立てるのではなく、減少しないように維持する方向で目標を考え活動したい。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画に準じて実施されている。

# 環境目標と評価 本社

## ■ 環境目標

### 今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	30130.8	±0%	30130.8
	▶ 電気使用量の削減	kWh	37616.0	±0%	37616.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	1.0	±0%	1.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	4422.4	±0%	4422.4
②	廃棄物排出量の削減	kg	1230.3	±0%	1230.3
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	42.4	±0%	42.4
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	58	±0人	58.0
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない部署	—	該当しない部署

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H27年度		H30年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	27556.9	-1.5%	27143.5	23322.4	114.1%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	30793	-3.0%	29869.2	37616.0	74.1%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0	±0%	0.0	1.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	4849.2	-1.5%	4776.5	4422.4	107.4%
②	廃棄物排出量の削減	kg	831.3	-3.0%	806.4	1230.32	47.4%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	111	-3.0%	107.7	42.4	160.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	57	+3人	60	58	96.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境目標と評価 本社

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1 年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	30130.8	±0%	30130.8	21784.3	127.7%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	37616.0	±0%	37616.0	35019.0	106.9%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	1.0	±0%	1.0	1.0	100.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	4422.4	±0%	4422.4	4148.08	106.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	1230.3	±0%	1230.3	968.82	121.3%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	42.4	±0%	42.4	20.9	150.6%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	58	±0 人	58	55	94.8%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない 部署	—	該当しない 部署	該当しない 部署	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	電気使用量と燃料使用量の削減目標を良い数値で達成できた事が、二酸化炭素排出量の削減目標の達成に繋がっている。
	▶ 電気使用量の削減	○	今年度は比較的暖冬の年だった。その事がエアコンの使用頻度の減少に繋がりが、目標値の達成に良い影響を与えたと考える。節電活動も継続してしっかりと行われていたので、来年度も気候に恵まれ、目標を達成できる事を期待したい。
	▶ ガス使用量の維持	○	無駄な使用もなく、しっかりと維持されている。
	▶ 燃料使用量の削減	○	エコドライブの意識が根付いてきている。
②	廃棄物排出量の削減	○	今年度は非常に良い結果がでている。
③	水使用量の削減	○	漏水等もなく、節水活動が積極的に行われている。
④	グリーン購入の推進	○	今後も継続し、優先的にグリーン製品の購入を行う。
⑤	グリーン活動への参加	×	目標の達成まであと一歩という所だった。社員の入れ替わりがあり、人員が安定しない時期もあったので致し方ない。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	該当しない部署

# 環境目標と評価 浄化槽事業部

## ■ 環境目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	102986.7	±0%	102986.7
	▶ 電気使用量の削減	kWh	25899.0	±0%	25899.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.0	±0%	0.0
	▶ 燃料使用量の削減	L	35411.1	±0%	35411.1
②	廃棄物排出量の削減	kg	6588.0	±0%	6588.0
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	187.0	±0%	187.0
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	300	±0人	300
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	
			H27年度		H30年度	H30年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	105035.3	-1.5%	103459.8	98299.0	105.0%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	25200	-3.0%	24444.0	25899.0	94.0%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.1	±0%	0.1	0.0	200.0%
	▶ 燃料使用量の削減	L	36409	-1.5%	35862.9	35411.11	101.3%
②	廃棄物排出量の削減	kg	5453.1	-3.0%	5289.5	6587.96	75.5%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	230	-3.0%	223.1	187.0	116.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	297	+3人	300	300	100.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。



# 環境目標と評価 浄化槽事業部

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1 年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	102986.7	±0%	102986.7	93452.6	109.3%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	25899.0	±0%	25899.0	22870.0	111.7%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	0.0	±0%	0.0	0.0	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	35411.11	±0%	35411.11	33912	104.2%
②	廃棄物排出量の削減	kg	6587.96	±0%	6587.96	5659.04	114.1%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	187	±0%	187	205.0	90.4%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	300	±0 人	300	239	79.7%
⑥	化学物質の適正管理	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	達成率も良く、非常に優秀な結果が出ている。
	▶ 電気使用量の削減	○	夏場に電気使用量が抑えられていた事が、非常に良い結果に繋がっている。積極的に電気使用量の削減活動が行われていた。来年度も目標を達成する事を期待したい。
	▶ ガス使用量の維持	○	年間を通してガスの使用は無かった。
	▶ 燃料使用量の削減	○	前年度の実績と月毎で比較しても、削減されている月の方が多く、非常に優秀な結果が出ている。
②	廃棄物排出量の削減	○	数年に一度、事務所内の不要品を一気に処分する事もあるので、年度ごとの排出量にばらつきがある。しかし、目標の達成ができているという事は、削減活動がしっかり行われている成果だと評価したい。
③	水使用量の削減	×	あと僅かというところで、目標の達成には至らなかった。
④	グリーン購入の推進	○	優先してグリーン製品を購入していた。
⑤	グリーン活動への参加	×	参加者が伸びなかった。来年度は目標の達成を期待したい。
⑥	化学物質の適正管理	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。

# 環境目標と評価 一廃事業部

## ■ 環境目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	39488.5	±0%	39488.5
	▶ 電気使用量の削減	kWh	活動の実施	±0%	活動の実施
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	活動の実施	±0%	活動の実施
	▶ 燃料使用量の削減	L	13852.3	±0%	13852.3
②	廃棄物排出量の削減	kg	活動の実施	±0%	活動の実施
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	活動の実施	±0%	活動の実施
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	122	±0人	122
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	一部実施	—	一部実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	一部実施	—	一部実施

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

※以前は、部門専用の事務所が別にあったが、現在は解体されていて、浄化槽事業部の事務所に統合されている。

分けて管理する事が難しい項目がある為、ここでは個別評価できる項目のみを管理する。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	
			H27年度実績		H30年度	H30年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	43440.8	-1.5%	42789.2	38390.9	110.3%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	9175	-3.0%	8899.8	6064.0	131.9%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	14802	-1.5%	14580.0	13852.31	105.0%
②	廃棄物排出量の削減	kg	284.3	-3.0%	275.8	80.04	171.0%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	140	-3.0%	135.8	105.0	122.7%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	144	+3人	147	122	83.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	一部実施	—	一部実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	一部実施	—	一部実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境目標と評価 一 廃事業部

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1 年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	39488.5	±0%	39488.5	34564.7	112.5%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	活動の実施	±0%	活動の実施	実施している	—
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	活動の実施	±0%	活動の実施	実施している	—
	▶ 燃料使用量の削減	L	13852.3	±0%	13852.3	13170.83	104.9%
②	廃棄物排出量の削減	kg	活動の実施	±0%	活動の実施	実施している	—
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	活動の実施	±0%	活動の実施	実施している	—
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	122	±0 人	122	121	99.2%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	一部実施	—	一部実施	実施している	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	一部実施	—	一部実施	実施している	—

※削減目標項目の達成率は、「(目標値-実績値)/目標値+1」×100で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

※以前は、部門専用の事務所が別にあったが、現在は解体されていて、浄化槽事業部の事務所に統合されている。

分けて管理する事が難しい項目もある為、ここでは個別評価できる項目のみを管理する。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	目標値を達成する事ができている。来年度も目標が達成される事を期待したい。
	▶ 電気使用量の削減	—	大牟田支店内に作業員待機所があり、浄化槽事業部と共用で電気を使用している。分けて管理する事が難しい為、浄化槽事業部と合わせて管理する事とし、評価も浄化槽事業部に含めて行う。
	▶ ガス使用量の維持	—	該当しない部署。
	▶ 燃料使用量の削減	○	月毎に単月で比較しても前年度より使用量が削減されている月が多く、優秀な結果が出ている。
②	廃棄物排出量の削減	—	電気使用量の削減項目と同様の理由により、ここでは評価しない。
③	水使用量の削減	—	上記と同じ理由により、ここでは評価しない。
④	グリーン購入の推進	○	優先してグリーン製品を購入していた。
⑤	グリーン活動への参加	△	目標達成まであと1人というところだった。活動はきちんと行われていたので、問題はないと考える。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	この部署では、全ての作業車に車載式計量機がついているため、必ず毎回、積込み重量の確認(過積載になっていないかの確認)がされている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	事前の打ち合わせ等を活用し、環境に配慮しながら業務を行う事ができていた。

# 環境目標と評価 熊本支店

## ■ 環境目標

### 今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	219789.8	±0%	219789.8
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17513.0	±0%	17513.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	98.7	±0%	98.7
	▶ 燃料使用量の削減	L	81170.7	±0%	81170.7
②	廃棄物排出量の削減	kg	1021.4	±0%	1021.4
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	430.0	±0%	430.0
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	58	±0人	58.0
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	
			H27年度		H30年度	H30年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	194608.9	-1.5%	191689.8	216619.9	87.0%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	18884	-3.0%	18317.5	17513.0	104.4%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	117.4	±0%	117.4	98.7	115.9%
	▶ 燃料使用量の削減	L	71264	-1.5%	70195.0	81170.71	84.4%
②	廃棄物排出量の削減	kg	429	-3.0%	416.1	1021.4	-45.5%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	395	-3.0%	383.2	430.0	87.8%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	47	+3人	50	58	116.0%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub> 排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境目標と評価 熊本支店

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1 年度	R1 年度	
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	219789.8	±0%	219789.8	180983.4	117.7%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	17513.0	±0%	17513.0	17553.0	99.8%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	98.7	±0%	98.7	149.8	48.2%
	▶ 燃料使用量の削減	L	81170.71	±0%	81170.7	67375.89	117.0%
②	廃棄物排出量の削減	kg	1021.4	±0%	1021.4	873.06	114.5%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	430.0	±0%	430.0	359.0	116.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	58	±0 人	58	66	113.8%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施されている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	電気使用量とガス使用量の項目では、目標値を達成していないが、燃料使用量の削減項目で非常に良い結果が出ている。その事が大きく影響し、二酸化炭素排出量の削減項目の目標を達成できている。
	▶ 電気使用量の削減	△	目標を達成できなかったが、ほんの僅かという事もあり問題はないと考える。
	▶ ガス使用量の維持	×	シャワー等の使用により、ガス使用量が多かった事が、目標値の達成を出来なかった事に影響していると考ええる。
	▶ 燃料使用量の削減	○	日々、行われているエコドライブ等の削減活動の結果がでていていると感じる。しかし、業務量と比例する関係にある項目なので、大幅に使用量が減少する事はあまり好ましいは事ではない。
②	廃棄物排出量の削減	○	年度ごとの排出量にばらつきがある。しかし、目標の達成ができていているという事は、削減活動がしっかり行われている成果だと評価したい。
③	水使用量の削減	○	節水活動が積極的に行われている。余裕のある状態で目標を達成できていた。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されている。
⑤	グリーン活動への参加	○	非常に参加者が多く、意欲的に取り組まれている。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施されている。

# 環境目標と評価 久留米支店

## ■ 環境目標

今年度目標

No.	項目	単位	規定値	増減値	到達目標値
			H30年度実績		R1年度
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	287996.1	±0%	287996.1
	▶ 電気使用量の削減	kWh	23661.0	±0%	23661.0
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	4.3	±0%	4.3
	▶ 燃料使用量の削減	L	106550.9	±0%	106550.9
②	廃棄物排出量の削減	kg	564.0	±0%	564.0
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	155.0	±0%	155.0
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0品	12
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	64	±0人	64.0
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施

今年度の環境目標は単年度計画とし、中長期目標の設定及び、2017年版ガイドラインへの対応は、産業廃棄物処理業者向けガイドラインの公表後とする。

※各年度の増減値は、全て「規定値に対する値」である。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

## ■ 前年度実績

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	
			H27年度		H30年度	H30年度	達成率
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	220606.7	-1.5%	217297.6	283713.5	69.4%
	▶ 電気使用量の削減	kWh	18596	-3.0%	18038.1	23661.0	68.8%
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	7.1	±0%	7.1	4.3	139.4%
	▶ 燃料使用量の削減	L	81206	-1.5%	79987.9	106550.87	66.8%
②	廃棄物排出量の削減	kg	449.8	-3.0%	436.3	563.98	70.7%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	151	-3.0%	146.5	155.0	94.2%
④	グリーン購入の推進	品目数	9	+3品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	59	+3人	62	64	103.2%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO<sub>2</sub>排出係数は、九州電力の2018年度調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/kWh」を使用した。

# 環境目標と評価 久留米支店

## ■ 環境目標の達成状況と評価

No.	項目	単位	規定値	増減値	目標値	実績値	達成率
			H30年度		R1 年度		
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	287996.1	±0%	287996.1	287340.3	100.2%
▶	電気使用量の削減	kWh	23661.0	±0%	23661.0	20584.0	113.0%
▶	ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	4.3	±0%	4.3	3.2	125.6%
▶	燃料使用量の削減	L	106550.87	±0%	106550.9	108286	98.4%
②	廃棄物排出量の削減	kg	563.98	±0%	564.0	550.14	102.5%
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	155.0	±0%	155.0	176.0	86.5%
④	グリーン購入の推進	品目数	12	±0 品	12	12	100.0%
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	64	±0 人	64	110	171.9%
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署	—	該当しない部署	該当しない部署	—
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	活動の実施	—	活動の実施	実施できている	—

※削減目標項目の達成率は、「((目標値-実績値)/目標値+1)×100」で算出した。

※電力のCO2排出係数は、九州電力の2018年調整後排出係数「0.347kg-CO<sub>2</sub>/ kWh」を使用した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	○	電気使用量とガス使用量の削減項目が、共に優秀な数値で目標値を達成している。その事が燃料使用量の削減項目の不足分を補う形で、総合した二酸化炭素排出量の削減目標を達成する事ができている。
▶	電気使用量の削減	○	達成率も高く、少し余裕のある状態で目標を達成している。
▶	ガス使用量の維持	○	使用量が抑えられていて、非常に良い結果が出ている。
▶	燃料使用量の削減	×	目標を達成する事はできなかったが、売上高が前年度比で28%も増加している事を考えると、この結果は決して悪い結果ではない。
②	廃棄物排出量の削減	○	削減活動がきちんと行われていて、目標を達成できている。
③	水使用量の削減	×	節水への意識が少し薄れているように感じる。達成状況を報告し、改めて節水活動への協力を呼び掛ける。
④	グリーン購入の推進	○	優先的に購入されていた。
⑤	グリーン活動への参加	○	グリーン活動への参加人数も多く、非常に優秀な結果が出ている。
⑥	化学物質の適正管理	—	該当しない部署。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	○	環境活動計画の内容に準じて実施できている。



# 環境目標と評価

## ■ 補足 化学物質の管理表

年度	種別	化学物質の種類または薬品名	単位	年間購入量
R1年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	20.0
		アロンブロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	540.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	24.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	24.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	24.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	20.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	825.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,875.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	0.0		
H30年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	0.0
		アロンブロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	1,350.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	12.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	80.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	0.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,200.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	2,250.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	150.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	0.0		
H29年	PRTR法に該当する化学物質	PRTR法に該当する化学薬品の購入はありませんでした。	kg	0.0
			kg	
			kg	
	購入した化学薬品 (参考)	(Y-ST-1)ストール1号 10L×1【尿石除去剤】	kg	0.0
		アロンブロックC-512【カチオン凝集剤】	kg	1,125.0
		ビーナスフェーバーTYPE0【シーディング剤】	kg	12.0
		ビーナスフェーバーTYPE1【シーディング剤】	kg	24.0
		ビーナスフェーバーTYPE5【シーディング剤】	kg	0.0
		次亜塩素酸ソーダ【消毒剤】	kg	40.0
		東ソー)フレーク苛性ソーダ【配管づまり除去剤】	kg	0.0
		水処理剤 XBL-90(375g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,650.0
		水処理剤 XM-90(100g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	1,650.0
		水処理剤 XS-90H(15g錠剤)【水処理用塩素剤】	kg	75.0
グリソノ【グリソ除去剤】	kg	0.0		

化学物質購入量



# 環境目標と評価

## ■ 補足 環境目標の設定に関する考え方

R1年度は、下記の考え方を取りまとめ、これに従って環境目標を設定した。

No.	項目	達成状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	節電の日常からなる人為的取り組みによる削減は継続するとして、しかしながら、それだけで毎年削減していくことはもう難しい段階にきている。これからは、何らかの設備投資による削減も含めて取り組む必要がある。 今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とし、活動に取り組む。ただし、燃料使用量が業績向上に伴って増加している場合には、二酸化炭素排出量にも大きく影響する。その場合は、電気使用量が削減できていれば評価に値すると考える。
	▶ 電気使用量の削減	kWh	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。削減の対策として、遮熱フィルムの貼付け、エアコンの取替え、蛍光灯の変更なども合わせて検討する。
	▶ ガス使用量の維持	m <sup>3</sup>	削減するというほど使用しているものでも無い上、用途(稀にお茶を煮出す、従業員用のシャワー利用)として、意図的に削減できるものでもない。毎年、同量を維持することを目標とする。
	▶ 燃料使用量の削減	L	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。主にエコドライブの実施。低燃費車の導入や、過積載防止という取り組みも燃料使用量の削減に影響するが、それについては以下の項目⑦及び⑧の目標として取り組む。 ただし、業務の増減によって左右されるため、実績評価にあたっては、その年の業績と比べて評価しなければならない。業績が向上した年は、燃料使用量が増えて当然である。また、エンジンを利用して機械を稼働させる吸引車が殆どであり、走行距離と給油量から燃費を計算できるものではないため、燃費による評価は採用しない。
②	廃棄物排出量の削減	kg	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。
③	水使用量の削減	m <sup>3</sup>	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。
④	グリーン購入の推進	品目数	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。現場資材については品質、性能を優先するため、こちらから指示することはできない。基本的に、事務用品及び福利厚生品を対象として取り組む。
⑤	グリーン活動への参加	人 (のべ数)	今年度は単年計画とし、H30年度時点の実績を維持する事を目標とする。
⑥	化学物質の適正管理	—	適正管理の実施を目標とする。適正管理の意味するところは、「①購入量を記録する」「②化学薬品を購入した場合はMSDSを取得する」「③購入量とMSDS情報から、PRTR法に該当する有害物質の量を記録する」ということ。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮	—	収集運搬においては、過積載の防止を目標とし、毎年5月と11月を過積載防止月間と設定して取り組みの状況を確認する。 処分(中間処理)においては、脱水後の汚泥を再資源化(堆肥化、発酵)の処分場へ搬入することを目標とする。この結果については、「環境への負荷の状況」に記載する量で確認できる。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 ※建設業項目	—	建設業と言っても、建築、解体、大規模な工事等を行っているわけではない。施工時に環境への配慮として実施すべき項目を設定し、それが取り組まれているかどうかで評価する。

# 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

## 本 社

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	昼休み中は消灯する。	○	確実に実施されている。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	こまめに消灯されている。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	可能な限り守られている。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月の大掃除の際に、清掃を実施した。
	▶ガス使用量の維持 (H30年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	実施されている。
	▶燃料使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	エコドライブを実施する。	○	確実に取り組んでいる。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	必ず確認されている。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に確認し、最短距離を走行できるよう心掛けている。
②	廃棄物排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	確実に実施されている。
		2	分別を徹底する。	○	きちんと分別されている。
③	水使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	意識して取り組んでいる。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	確실히行っている。
④	グリーン購入の推進 (H30年度実績と同量を維持)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施されている。
⑤	グリーン活動への参加 (H30年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	48	例年通り実施している。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	7	地域の駅で開催された清掃イベントに参加する事ができた。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	—	該当しない部署
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	—	該当しない部署
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	—	該当しない部署
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	—	該当しない部署
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	—	該当しない部署

# 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

## 浄化槽事業部

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	昼休み中は消灯する。	○	習慣として出来ています。継続して下さい。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	こまめに消灯しています。継続して下さい。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	出来ています。温度管理をしてください。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	年末の大掃除に実施。
	▶ガス使用量の維持 (H30年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	実施出来ています。継続して下さい。
	▶燃料使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	エコドライブを実施する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	前日に運行ルートを確認して業務にあたっています。
②	廃棄物排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	分別を徹底する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
③	水使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
④	グリーン購入の推進 (H30年度実績と同量を維持)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
⑤	グリーン活動への参加 (H30年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	229	実施出来ています。継続して下さい。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	10	10月に新大牟田駅で清掃活動がありました。次回は5月に大牟田駅で清掃活動があります。参加してみてください。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	実施出来ています。11月は過積載強化防止月間でした。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	実施出来ています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	実施出来ています。継続して下さい。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	実施出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	実施出来ています。

# 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

## 一 廃事業部

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	① 二酸化炭素排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持) ▶電気使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持) ▶ガス使用量の維持 (H30年度実績と同量を維持) ▶燃料使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
		1	昼休み中は消灯する。	○	習慣として実施されています。継続してください。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	こまめに消灯できています。継続してください。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	実施出来ています。温度管理をしてください。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月7日に実施されていました。
		1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	—	該当しない部署
		1	エコドライブを実施する。	○	実施できています。継続してください。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	実施できています。継続してください。
②	② 廃棄物排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	前日に運行ルートを確認して業務にあたっている。
		1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	実施できています。継続してください。
③	③ 水使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	2	分別を徹底する。	○	実施できています。継続してください。
		1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	実施出来ています。継続して下さい。
④	④ グリーン購入の推進 (H30年度実績と同量を維持)	2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	実施出来ています。継続してください。
		1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施できています。継続してください。
⑤	⑤ グリーン活動への参加 (H30年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	実施できています。継続してください。
		1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	107	実施出来ています。継続して下さい。
⑥	⑥ 化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	14	新大牟田駅の清掃活動に参加してくれました。次回は新大牟田駅の清掃活動があります。参加してみてください。
		1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署。
⑦	⑦ 受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	実施出来ています。継続してください。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	—	該当しない部署。
⑧	⑧ 自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	実施出来ています。継続してください。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	—	該当しない部署。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	—	該当しない部署

# 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

## 熊本支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	昼休み中は消灯する。	○	実施されています。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	○	実施されています。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	○	実施されています。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	12月に清掃を実施しています。
	▶ガス使用量の維持 (H30年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	実施されています。
	▶燃料使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	エコドライブを実施する。	○	アイドリングストップ等を心掛け、意識して実施されています。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	○	摩耗の激しいタイヤは事前に交換する等、対策も実施されています。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	事前に計画を立て、最短距離を走行できるよう心掛けていた。
②	廃棄物排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	○	きちんと記録されていた。
		2	分別を徹底する。	○	実施されています。
③	水使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	意識して取り組んでいた。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	水量の弱いホースを使用し、工夫して洗車を行っていました。
④	グリーン購入の推進 (H30年度実績と同量を維持)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	優先して購入できています。
⑤	グリーン活動への参加 (H30年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	64	業務の忙しい中でも実施されていました。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	2	11月に行われた環境イベントに2名が参加しました。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	○	実施されています。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	実施されています。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	適切な回転数で稼働できています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	責任者による周辺状況の説明により、事前に車両の配置状況の計画を行い、作業が円滑に進行するよう心掛けていた。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	事前に車両からの油漏れ等がないかチェックし、現場へ向かうよう心掛けていた。



# 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

## 久留米支店

No.	目標	No.	実施内容	実施状況	評価コメント
①	二酸化炭素排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	※下記の通り、電気、ガス、燃料の使用量を削減して、二酸化炭素排出量を削減する。			
	▶電気使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	昼休み中は消灯する。	△	もう少し努力して下さい。
		2	人がいない部屋や車庫の電灯は消灯する。	△	もう少し努力して下さい。
		3	エアコン使用時は、夏が室温28℃、冬が室温20℃になるよう設定温度を調整する。	△	もう少し努力して下さい。
		4	エアコンのフィルターを、最低でも年1回清掃する。	○	大掃除の際に実施していました。
	▶ガス使用量の維持 (H30年度実績と同量を維持)	1	ガスを使用しない時は元栓を閉めておく。	○	出来ています。
	▶燃料使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	エコドライブを実施する。	○	出来ています。
		2	始業前に、タイヤの空気圧を確認する。	△	忙しいからと疎かにせず、忙しい時にこそ確認を心掛けて下さい。
		3	運行ルートを事前に計画し、最短距離を走行する。	○	実施されています。
②	廃棄物排出量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	ゴミの排出重量をかならず記録する。	△	もう少し努力して下さい。
		2	分別を徹底する。	○	きちんと分別されていると思います。
③	水使用量の削減 (H30年度実績と同量を維持)	1	手洗い、洗車時の節水を徹底する。	○	きちんと節水が徹底されていると思います。
		2	水使用量の検針票を毎回確認し、漏水等が発生していないか監視する。	○	出来ています。
④	グリーン購入の推進 (H30年度実績と同量を維持)	1	購入を推奨するグリーン製品リストを作成し、これに従って備品を購入する。	○	出来ています。
⑤	グリーン活動への参加 (H30年度実績と同量を維持) ※記載している数字は年間の「のべ人数」	1	会社近隣のゴミ拾い清掃活動を実施する。	106	忙しい中、よく活動していると思います。
		2	行政、団体主催の環境イベント(ゴミ拾いや環境啓蒙など)に参加する。	4	10月に開催された環境イベントに参加しています。
⑥	化学物質の適正管理 (適正管理を確実に実施)	1	購入した薬品のMSDSを取得し、PRTR法に該当する有害物質が含まれていないかを確認し、記録する。	—	該当しない部署
⑦	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	(収集運搬)過積載を防止する。	△	過積載防止を徹底して下さい。
		2	(処分)脱水後汚泥は、基本的に再資源化(堆肥化、発酵)を行う処分場に処分を委託する。	○	殆どが再資源化です。
⑧	自らが施工する工事に関する環境配慮 (取り組みを確実に実施)	1	吸引車での作業時は、適切な回転数で稼働させる。	○	出来ています。
		2	最短の作業時間で終わるよう、事前に作業計画を考えた上で施工する。	○	よく出来ています。
		3	周辺環境を汚染しないよう配慮して、準備・施工する。	○	よく出来ています。

## 環境活動計画の取組結果とその評価、次年度の取組内容

### ■ その他の環境活動の紹介（一部）

- 営業車は、基本的にプリウスやアクアなどのハイブリッド車か低燃費車を購入している。
- 社内のプリンタ複合機は、省電力（スリープ）モード付きで、人感センサーで起動するタイプのものを購入している。（富士ゼロックス製）
- 事務所内の蛍光灯を、LED 照明へ変更する計画がある。
- 夏はクールビズ、冬はウォームビズを推奨している。
- 作業員の制服は、夏服も冬服もグリーン製品を使用している。
- 室温管理のために、室温計を設置している。
- 重要書類の処分は、クロネコヤマトの「機密文書リサイクルサービス（溶解処分）」を利用している。

### ■ 次年度の計画

次年度は 2017 年度版ガイドラインへ対応する為に、項目の見直しと追加等を行い、2017 年度版ガイドラインへ対応した形で、3 カ年計画を作成したいと考えている。しかし、業務との兼ね合いもあるので、計画の作成が審査書類提出時期までに間に合わない判断した場合には、次年度まで今年度と同じ 2009 年度版ガイドラインに沿った形で単年度計として対応する。

# 環境負荷実績

## 全体

1. 事業の規模										
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比				
売上高		千円	977,270	993,167	1,075,820	108.3%				
従業員		人	73	70	71	101.4%				
床面積		m <sup>2</sup>	1688.2	1688.2	1231.77	73.0%				
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)							重要性			
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	目標項目	取組項目	監視項目	
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	605196.1	660345.7	618125.3	94%	○			
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	3887.4	3886.8	3734.0	96%			○	
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	7.1	6.4	7.5	117%			○	
	産業廃棄物中間処理量	t	830.5	1422.2	1240.8	87%			○	
	▶ち再資源化等量	t	830.5	1422.2	1240.8	87%			○	
	中間処理後の産物の処分量	t	155.1	265.6	198.5	75%			○	
	▶ち再資源化等量	t	155.1	265.6	198.5	75%	○			
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	12001.3	10802.2	9926.9	92%			○	
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	2123.1	1846.0	1906.5	103%			○
		単純焼却	kg	1685.0	1480.9	1314.8	89%			○
		最終処分	kg	44.3	36.8	9.8	27%			○
	産業廃棄物	中間処理	kg	2750.0	6120.0	4820.0	79%			○
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○
		廃棄物排出量合計	kg	6602.4	9483.7	8051.1	85%	○		
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	336.0	292.0	205.0	70%			○	
	下水道	m <sup>3</sup>	629.2	627.4	555.9	89%			○	
	排水量合計	m <sup>3</sup>	965.2	919.4	760.9	83%	○			
	BOD排出量	g	1580.8	1421.2	1558.0	110%			○	
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	965.2	919.4	760.9	83%		○		
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
		kg				—		○		
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	1111065.2	1088702.0	943935.6	87%	○		
	化石燃料	軽油	MJ	6884632.8	7692582.7	7221664.2	94%		○	
		ガソリン	MJ	1354398.3	1332711.0	1215451.3	91%	○		
		灯油	MJ	27044.2	55535.5	99653.3	179%	○		
		ガス	MJ	5593.5	4680.0	6930.0	148%	○		
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—		○	
その他		—	0.0	0.0	0.0	—		○		
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	853.0	789.0	829.0	105%			○	
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—	
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—		
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	998.0	1030.0	990.0	96%			○	
	▶ち再資源化	t	998.0	1030.0	990.0	96%			○	

※ 集計期間は、各年度の01月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。



# 環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量						
処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年	H30年	R1年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		47.6	43.8	72.1	
	汚泥		3223.5	3289.3	3204.9	
	廃油		11.0	5.9	7.5	
	廃酸		179.0	9.1	0.0	
	廃アルカリ		7.9	11.6	3.0	
	廃プラスチック類		9.8	13.8	3.1	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		267.6	306.9	368.4	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.7	1.8	0.4	
	ガラスくず・陶磁器くず及びびん・缶・トク		93.3	0.0	5.1	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	4.5	
	がれき類		2.5	0.0	0.0	
	ばいじん		44.7	204.6	65.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			3887.4	3886.8	3734.0
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.2	0.2	0.2	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	特管燃え殻		6.5	6.2	7.3	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.4	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			7.1	6.4	7.5
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	830.5	1422.2	1240.8
		有機性汚泥	脱水	830.5	1422.2	1240.8
		再資源化等量 小計		830.5	1422.2	1240.8
中間処理量 合計			830.5	1422.2	1240.8	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
				0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	155.1	265.6	198.5
中間処理後処分量 合計			155.1	265.6	185.3	
浄化槽 清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年	H30年	R1年
				処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		12001.3	10802.2	9926.9

# 環境負荷実績

## 本 社

1. 事業の規模												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比						
売上高		千円	11,927	9,335	9,246	99.0%						
従業員		人	8	8	8	100%						
床面積		m <sup>2</sup>	118.44	118.4	118.44	100%						
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	重要性					
							目標項目	取組項目	監視項目			
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	23645.6	23322.4	21784.3	93%	○					
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
	産業廃棄物中間処理量	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化等量	t	—	—	—	—			○			
	中間処理後の産廃の処分量	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化等量	t	—	—	—	—	○					
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	993.4	913.5	959.0	105%			○		
		単焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		最終処分	kg	40.2	36.8	9.8	27%			○		
	産業廃棄物	中間処理	kg	120.0	280.0	0.0	0%			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		廃棄物排出量合計	kg	1153.6	1230.3	968.8	79%	○				
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○			
	下水道	m <sup>3</sup>	75.2	42.4	20.9	49%			○			
	排水量合計	m <sup>3</sup>	75.2	42.4	20.9	49%	○					
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○			
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	75.2	42.4	20.9	49%			○			
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	380440.7	369765.3	344236.8	93%	○				
	化石燃料	軽油	MJ	0.0	0.0	0.0	—			○		
		ガソリン	MJ	152216.1	153015.0	143523.6	94%	○				
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○				
		ガス	MJ	45.0	45.0	45.0	100%	○				
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○		
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○			
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	267.0	170.5	236.0	138%			○			
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化	t	—	—	—	—			○			

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

## <産業廃棄物処理量について>

本社は産業廃棄物収集運搬及び処分を行う部署ではない為

実績はありません

# 環境負荷実績

## 浄化槽事業部

1. 事業の規模												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比						
売上高		千円	302,415	284,340	279,623	98.3%						
従業員		人	24	21	21	100%						
床面積		m <sup>2</sup>	429.94	429.94	429.94	100%						
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	重要性					
							目標項目	取組項目	監視項目			
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	98939.3	98299.0	93452.6	95%	○					
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	530.4	451.0	300.3	67%			○			
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.0	0.0	0.0	—			○			
	産業廃棄物中間処理量	t	383.9	457.6	369.6	81%			○			
	▶ち再資源化等量	t	383.9	457.6	369.6	81%			○			
	中間処理後の産廃の処分量	t	77.0	90.2	66.0	73%			○			
	▶ち再資源化等量	t	77.0	90.2	66.0	73%	○					
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	12001.3	10802.2	9926.9	92%			○			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	734.2	748.0	839.0	112%			○		
		単焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		最終処分	kg	4.1	0.0	0.0	—			○		
	産業廃棄物	中間処理	kg	2630.0	5840.0	4820.0	83%			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		廃棄物排出量合計	kg	3368.3	6588.0	5659.0	86%	○				
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	208.0	187.0	205.0	110%			○			
	下水道	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○			
	排水量合計	m <sup>3</sup>	208.0	187.0	205.0	110%	○					
	BOD排出量	g	1580.8	1421.2	1558.0	110%			○			
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	208.0	187.0	205.0	110%			○			
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	0.0	0.0	0.0	—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	235172.9	254587.2	224812.1	88%	○				
	化石燃料	軽油	MJ	878189.4	896000.5	856253.0	96%			○		
		ガソリン	MJ	451655.6	413663.8	397796.2	96%	○				
		灯油	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○				
		ガス	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○				
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○		
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○			
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	180.5	158.5	193.0	122%			○			
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化	t	—	—	—	—			○			

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。

# 環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量							
処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年	H30年	R1年		
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)		
産業廃棄物の処理量	収集運搬	燃え殻	0.0	0.0	0.0		
		汚泥	526.7	447.7	298.3		
		廃油	1.6	2.6	2.0		
		廃酸	0.0	0.0	0.0		
		廃アルカリ	0.0	0.0	0.0		
		廃プラスチック類	2.1	0.7	0.0		
		紙くず	0.0	0.0	0.0		
		木くず	0.0	0.0	0.0		
		繊維くず	0.0	0.0	0.0		
		動・植物性残さ	0.0	0.0	0.0		
		ゴムくず	0.0	0.0	0.0		
		金属くず	0.1	0.0	0.0		
		ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず	0.0	0.0	0.0		
		鉱さい	0.0	0.0	0.0		
		動物のふん尿	0.0	0.0	0.0		
		がれき類	0.0	0.0	0.0		
		ばいじん	0.0	0.0	0.0		
		石綿含有産業廃棄物	0.0	0.0	0.0		
		収集運搬量 合計			530.4	451.0	300.3
		収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.0
特管廃酸			0.0	0.0	0.0		
特管廃アルカリ			0.0	0.0	0.0		
特管燃え殻			0.0	0.0	0.0		
特管汚泥			0.0	0.0	0.0		
特管鉱さい			0.0	0.0	0.0		
特管ばいじん			0.0	0.0	0.0		
特管はい石綿等			0.0	0.0	0.0		
収集運搬量 合計			0.0	0.0	0.0		
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	383.9	457.6	369.6	
		有機性汚泥	脱水	383.9	457.6	369.6	
		再資源化等量 小計		383.9	457.6	369.6	
中間処理量 合計			383.9	457.6	369.6		
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0	
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	77.0	90.2	66.0	
中間処理後処分量 合計			77.0	90.2	66.0		
浄化槽 清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年 処理量(t)	H30年 処理量(t)	R1年 処理量(t)	
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		12001.3	10802.2	9926.9	

# 環境負荷実績

## 一廃事業部

1. 事業の規模												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比						
売上高		千円	89,455	73,569	68,299	93%						
従業員		人	14	9	9	100%						
床面積		m <sup>2</sup>	456.43	456.43	0	0%						
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)							重要性					
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	目標項目	取組項目	監視項目			
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	42891.0	38390.9	34564.7	90%	○					
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
	産業廃棄物中間処理量	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化等量	t	—	—	—	—			○			
	中間処理後の産廃の処分量	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化等量	t	—	—	—	—	○					
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	276.0	80.0	0.0	0%		○			
		単純焼却	kg	0.0	0.0	0.0	—		○			
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—		○			
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—		○			
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—		○			
		廃棄物排出量合計	kg	276.0	80.0	0.0	0%	○				
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	128.0	105.0	0.0	0%			○			
	下水道	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○			
	排水量合計	m <sup>3</sup>	128.0	105.0	0.0	0%	○					
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○			
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	128.0	105.0	0.0	0%		○				
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—		○				
		kg	—	—	—	—		○				
		kg	—	—	—	—		○				
		kg	—	—	—	—		○				
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	84734.6	59609.1	0.0	0%	○				
	化石燃料	軽油	MJ	563336.9	520379.5	503125.7	97%		○			
		ガソリン	MJ	17158.1	7328.6	0.0	0%	○				
		灯油	MJ	697.3	660.6	0.0	0%	○				
		ガス	MJ	0.0	0.0	0.0	—	○				
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—		○			
その他		—	0.0	0.0	0.0	—		○				
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	0.0	0.0	0.0	—			○			
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—				
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	—	—	—	—			○			
	▶ち再資源化	t	—	—	—	—			○			
※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。												

## <産業廃棄物処理量について>

一廃事業部は産業廃棄物収集運搬及び処分を行う部署ではない為

実績はありません

# 環境負荷実績

## 熊本支店

1. 事業の規模												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比						
売上高		千円	283,490	288,491	285,485	99.0%						
従業員		人	15	15	14	93%						
床面積		m <sup>2</sup>	172.25	172.25	172.25	100%						
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	重要性					
							目標項目	取組項目	監視項目			
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	168738.5	216619.9	180983.4	84%	○					
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	1331.7	1156.4	1153.4	100%			○			
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	6.7	6.4	7.3	114%			○			
	産業廃棄物中間処理量	t	255.2	785.3	693.0	88%			○			
	▶ち再資源化等量	t	255.2	785.3	693.0	88%			○			
	中間処理後の産廃の処分量	t	31.9	136.9	92.9	68%			○			
	▶ち再資源化等量	t	31.9	136.9	92.9	68%	○					
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	119.6	104.5	108.4	104%			○		
		単純焼却	kg	1138.3	916.9	764.7	83%			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		廃棄物排出量合計	kg	1257.9	1021.4	873.1	85%	○				
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○			
	下水道	m <sup>3</sup>	381.0	430.0	359.0	83%			○			
	排水量合計	m <sup>3</sup>	381.0	430.0	359.0	83%	○					
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○			
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	381.0	430.0	359.0	83%			○			
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	177116.9	172152.8	172546.0	100%	○				
	化石燃料	軽油	MJ	2187338.1	2741172.4	2255708.9	82%			○		
		ガソリン	MJ	173058.1	295950.1	236822.1	80%	○				
		灯油	MJ	4862.8	31518.0	54365.5	172%	○				
		ガス	MJ	5377.5	4441.5	6741.0	152%	○				
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○		
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○			
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	182.5	193.0	213.0	110%			○			
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	610.0	620.0	600.0	97%			○			
	▶ち再資源化	t	610.0	620.0	600.0	97%			○			

※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。



# 環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量						
処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年	H30年	R1年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
産業廃棄物の処理量 収集運搬	燃え殻		20.0	32.0	61.2	
	汚泥		1215.5	1110.4	983.2	
	廃油		0.0	0.0	0.0	
	廃酸		0.0	0.0	0.0	
	廃アルカリ		2.9	11.6	2.6	
	廃プラスチック類		0.0	2.5	0.0	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		0.0	0.0	101.9	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.0	0.0	0.0	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		93.3	0.0	0.0	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	4.5	
	がれき類		0.0	0.0	0.0	
	ばいじん		0.0	0.0	0.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			1331.7	1156.4	1153.4
	収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.2	0.2	0.0
特管廃酸			0.0	0.0	0.0	
特管廃アルカリ			0.0	0.0	0.0	
特管燃え殻			6.5	6.2	7.3	
特管汚泥			0.0	0.0	0.0	
特管鉱さい			0.0	0.0	0.0	
特管ばいじん			0.0	0.0	0.0	
特管はい石綿等			0.0	0.0	0.0	
収集運搬量 合計			6.7	6.4	7.3	
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	255.2	785.3	693.0
		有機性汚泥	脱水	255.2	785.3	693.0
		再資源化等量 小計		255.2	785.3	693.0
中間処理量 合計			255.2	785.3	693.0	
中間処理後の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	31.9	136.9	92.9
中間処理後処分量 合計			31.9	136.9	92.9	
浄化槽清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年 処理量(t)	H30年 処理量(t)	R1年 処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

# 環境負荷実績

## 久留米支店

1. 事業の規模												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比						
売上高		千円	289,983	337,431	433,175	128%						
従業員		人	15	17	17	100%						
床面積		m <sup>2</sup>	511.14	511.14	511.14	100%						
2. 環境への負荷の状況(取りまとめ表)												
環境への負荷		単位	H29年	H30年	R1年	前年度比	重要性					
							目標項目	取組項目	監視項目			
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO <sub>2</sub>	270981.7	283713.5	287340.3	101%	○					
② 受託した廃棄物の処理量	産業廃棄物収集運搬量	t	2025.4	2279.4	2280.3	100%			○			
	特別管理産業廃棄物収集運搬量	t	0.4	0.0	0.2	—			○			
	産業廃棄物中間処理量	t	191.4	179.3	178.2	99%			○			
	▶ち再資源化等量	t	191.4	179.3	178.2	99%			○			
	中間処理後の産廃の処分量	t	46.2	38.5	39.6	103%			○			
	▶ち再資源化等量	t	46.2	38.5	39.6	103%	○					
	浄化槽汚泥(一廃)の収集運搬量	t	—	—	—	—			○			
③ 廃棄物排出量及び廃棄物最終処分量	一般廃棄物	再生利用	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		単純焼却	kg	546.7	564.0	550.1	98%			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
	産業廃棄物	中間処理	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		最終処分	kg	0.0	0.0	0.0	—			○		
		廃棄物排出量合計	kg	546.7	564.0	550.1	98%	○				
④-1 総排水量	公共用水域	m <sup>3</sup>	0.0	0.0	0.0	—			○			
	下水道	m <sup>3</sup>	173.0	155.0	176.0	114%			○			
	排水量合計	m <sup>3</sup>	173.0	155.0	176.0	114%	○					
	BOD排出量	g	—	—	—	—			○			
④-2 水使用量	上水	m <sup>3</sup>	173.0	155.0	176.0	114%			○			
⑤ 化学物質購入量	PRTR法に該当する化学物質	kg	—	—	—	—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
		kg				—			○			
⑥ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)		MJ	233600.1	232587.6	202340.7	87%	○				
	化石燃料	軽油	MJ	3255768.4	3535030.3	3606576.6	102%			○		
		ガソリン	MJ	560310.3	462753.5	437309.4	95%	○				
		灯油	MJ	21484.2	23357.0	45287.8	194%	○				
		ガス	MJ	171.0	193.5	144.0	74%	○				
	新エネルギー		—	0.0	0.0	0.0	—			○		
その他		—	0.0	0.0	0.0	—			○			
⑦ 物質使用量	資源使用量	kg	223.0	267.0	187.0	70%			○			
	循環資源はありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑧ サイト内で循環的利用を行っている物質等	該当するものではありません	—	—	—	—	—	—	—	—			
⑨ 建設業の廃棄物排出量	浚渫泥	t	388.0	410.0	390.0	95%			○			
	▶ち再資源化	t	388.0	410.0	390.0	95%			○			
※ 集計期間は、各年度の1月～12月です。以降に続く環境負荷データも全て同様です。												

# 環境負荷実績

② 受託した産業廃棄物の処理量						
処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年	H30年	R1年	
			処理量(t)	処理量(t)	処理量(t)	
収集運搬	燃え殻		27.7	11.8	11.0	
	汚泥		1481.3	1731.2	1923.4	
	廃油		9.4	3.4	5.5	
	廃酸		179.0	9.1	0.0	
	廃アルカリ		5.0	0.0	0.5	
	廃プラスチック類		7.7	10.7	3.1	
	紙くず		0.0	0.0	0.0	
	木くず		0.0	0.0	0.0	
	繊維くず		0.0	0.0	0.0	
	動・植物性残さ		267.6	306.9	266.5	
	ゴムくず		0.0	0.0	0.0	
	金属くず		0.5	1.8	0.4	
	ガラスくず・陶磁器くず及びコンクリートくず		0.0	0.0	5.1	
	鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	動物のふん尿		0.0	0.0	0.0	
	がれき類		2.5	0.0	0.0	
	ばいじん		44.7	204.6	65.0	
	石綿含有産業廃棄物		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			2025.4	2279.4	2280.3
収集運搬 (特別管理)	特管廃油		0.0	0.0	0.2	
	特管廃酸		0.0	0.0	0.0	
	特管廃アルカリ		0.0	0.0	0.0	
	特管燃え殻		0.0	0.0	0.0	
	特管汚泥		0.0	0.0	0.0	
	特管鉱さい		0.0	0.0	0.0	
	特管ばいじん		0.4	0.0	0.0	
	特管はい石綿等		0.0	0.0	0.0	
	収集運搬量 合計			0.4	0.0	0.2
中間処理	うち再資源化	有機性汚泥	脱水	191.4	179.3	178.2
		有機性汚泥	脱水	191.4	179.3	178.2
		再資源化等量 小計		191.4	179.3	178.2
中間処理量 合計			191.4	179.3	178.2	
中間処理後 の産業廃棄物	最終処分	なし		0.0	0.0	0.0
	再資源化等	脱水後汚泥	発酵(堆肥化)	46.2	38.5	39.6
中間処理後処分量 合計			46.2	38.5	39.6	
浄化槽 清掃	処理方法等	廃棄物種類等	処分方法等	H29年 処理量(t)	H30年 処理量(t)	R1年 処理量(t)
	浄化槽汚泥収集運搬 (一般廃棄物)	浄化槽汚泥		—	—	—

# 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

## ■ 確認を実施した環境関連法規

法令	対象施設・業種	確認
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	一般廃棄物収集運搬業	✓
	一般廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物の処理	✓
	特別管理産業廃棄物の処理	✓
	産業廃棄物管理票	✓
	雑則	✓
	産業廃棄物処理業 (収集運搬、処分)	✓
	特別管理産業廃棄物処理業 (収集運搬)	✓
	産業廃棄物処理施設	✓
福岡県廃棄物の処理及び清掃に関する法律 施行細則(条例)	実績報告書の提出	✓
建設工事に係る資源の再資源化等に関する 法律	建設業	✓
特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する 法律	作業車、営業車	✓
水質汚濁防止法	機械潤滑油の流出防止	✓
フロン排出抑制法	定格出力が7.5kW未満の業務用の エアコン等	✓
自動車リサイクル法	廃車時	✓
家電リサイクル法	家電の廃棄時	✓
小型家電リサイクル法	小型家電の廃棄時	✓
道路交通法	運搬車両、社用車	✓
浄化槽法 (大牟田市浄化槽法施行細則) (大牟田市浄化槽保守点検業者の登録に関 する条例)	浄化槽清掃業、保守点検業	✓
毒物及び劇物取締法	衛生設備の詰まり補修等	✓
上記に関する遵守チェック実施日	R1年12月27日	

# 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

## ■ 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

### 評価コメント

リストに記載した環境関連法規等について、書類の保管状況、遵守事項の実施状況、禁止事項の遵守状況等をチェックしました。  
行政指導は受けておりません。

## ■ 環境関連法規等の内容が最新の状態であるかの確認

最新の状態であるかの確認実施日	情報更新・追加等の有無
H24年2月1日	無し
H24年12月10日	有り
H25年12月27日	無し
H27年9月19日	有り
H28年10月15日	有り
H29年10月6日	有り
H30年10月9日	無し
R1年10月7日	無し

# 代表者による全体評価と見直しの結果

## ■ 全体評価

### ● 環境への取り組みは適切に実施されているか

実績値としては目標を達成できていない項目もありました。しかしそれが、環境への取り組みが適切に実施されていないという事に繋がるとは思いません。当社もこれまで取り組みを続けてきた中で、削減できる所は削減し、努力を重ねてきています。その中で、今以上に削減する事は難しい状況になってきていると感じます。今後は削減量を増やす事を目標とするのではなく、一定の削減量を維持する事を目標としつつも、さらに上を目指せるような目標設定の仕方を考えてみるのも面白いかもしれません。

### ● 環境経営システムが有効に機能しているか

環境経営システムは有効に機能していると思います。各支店の中で目標を達成する為のルールが決められていて、それに基づいて行動できていると感じられる場面を、いくつか目にする機会もありました。社員全員が参加して取り組む事ができていて、その取り組みの結果に対する評価も良くできていると思います。今後は、継続して取り組みとルールをしっかりと守っていきつつも、ルールの入替えを検討するなど、試行錯誤を行いながら、向上心を持って活動に取り組んでください。

## ■ 見直すべき点

### ● 環境方針

変更の必要性：無し

### ● 環境目標・環境活動計画

変更の必要性：有り

今年度の環境目標は、単年度計画になっていました。来年度からは新たな環境目標を設定してください。

### ● その他の環境経営システムの要素

変更の必要性：無し

代表取締役 久留須 智子



共栄環境開発株式会社

令和1年度 環境活動レポート